

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通サービス評価（２）	
日付：１１月３　日　（月）曜日、セッション時間：　１０：４５　～　１２：１５	
司会者名（所属）：　中辻　隆　（北海道大学公共政策大学院）	
討 議 内 容	セッション全体： ３本の論文を別個に発表を行ったので、セッション全体としての議論は行っていない
	（３００）米澤悠二（京都大学大学院工学研究科） ✓ 制御の目的関数式(3)がこれまで（春大会発表）異なる理由について：渋滞しているリンクとしていないリンクを区分することによって制御効率を改善する旨の回答がなされた ✓ ネットワーク全体を一括して扱っているので局所的な渋滞がある場合の適応性に関して議論がなされた。 ✓ シミュレーションツールを用いた数値解析において、最適集計交通密度 K_c がシミュレーションで仮定した Q-K 曲線に依存するのではないかと指摘がなされるとともに、K_c の決め方に関する議論があった。
	（３０１）吉澤隆司（京都大学大学院工学研究科） ✓ 各 2.5 m の小区間の遅れ時間には特性の異なる交差点遅れと走行時間遅れが混在している。交差点遅れの場合には、信号制御や交差道路等他の要因も含まれてくるので道路構造に関する分析に当たって問題はないかと質問があった。 ✓ 平均速度の各 LOS の速度値が、自由走行速度や米国の HCM での値に比べ小さいことに対して、LOS が広く分布するようにしたため結果として低い値での設定となった旨の説明があった。 ✓ 道路構造と速度値の低下原因に関していくつかの議論がなされた。 ✓ 今後の研究の発展に関して、動的な表現などの示唆があった
	（３０２）中山晶一郎（金沢大学） ✓ 一般的な分散値等ではなく 95 % タイル値を信頼性の指標とすることに関して、理解の容易さ、他の信頼性項目との統一性などの観点から議論がなされた。 ✓ 分散と選択比率の反証例（表 1）に関して、履歴の順序が問題であり、出現の順序が異なっている場合には必ずしも C の選択枝を取らないのではとの疑問が出され、履歴の順序と選択の関係に関して 2，3 の議論がなされた。 ✓ 分布関数で 95 % 周辺は一般的に水平になっているので、95 % タイル値とした場合に指標値としての安定性に問題がないか質問があった。 ✓ 旅行時間データが十分にはない場合の旅行時間の推定法に関して議論がなされた